看護研究はアートである

埼玉県立常盤高等学校長　鴨志田　新一

イギリスのフローレンス・ナイチンゲールは、「看護はひとつの芸術　アートであり、それは実際的かつ科学的な、系統だった訓練を必要とする芸術である」という言葉を残しています。「芸術」を国語辞書で調べてみると、こう書かれてあります。「特別の材料・様式・技巧などを使って美をつくりだし、表現する、人間の精神的・身体的活動」（新選国語辞典・小学館）

これまで５年間、看護を真摯に学んできた皆さんには、このナイチンゲールの言葉の意味を理解できることでしょう。

今、世界は、少子高齢化や人口減少、ＤＸやＡＩの飛躍的な進展、侵略や戦争による国際情勢の不安化、異常気象など、これまで人類が経験してこなかった事態が発生しています。そして、将来の予測困難な時代において、皆さん一人ひとりが、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通して、持続可能な社会を維持・発展させていく役割を担っています。そのためには、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどの資質・能力を身に付けていくことが重要です。

こうした資質・能力を身に付け、実際的かつ科学的な、系統だった訓練を続けることで、看護という一つのアートが生まれてくるのでしょう。

少し前の話になりますが、こんな記事がありました。「今の小学生の６５％は、現状まだ存在していない仕事に就く」これは、新しい仕事が生まれると同時に、今ある仕事がなくなることを意味します。別の記事には、今ある仕事の４９％は、将来、ＡＩやロボットに奪われてしまうということです。確かに単純で、パターン化できる仕事はＡＩやロボットに取って代わってしまうでしょう。また、今後の技術の進歩で、自動車の自動運転やドローンで荷物を運ぶことが可能になれば、それに関わっていた仕事もなくなるかもしれません。一方では、別の仕事が生まれてくるかもしれません。

さて、皆さんが取り組んだ「看護研究」ですが、これこそ実際的かつ科学的な取組であるといえるでしょう。目的の設定からはじまり、仮設、実験、データ分析、考察を経て、結論に至る過程は、引用文献や参考文献、エビデンスなども明示し、実際的かつ科学的であり、論理的でもある。こうした点を踏まえると、「看護研究」は「アート」であり「芸術」といえるでしょう。

ナイチンゲールのもう一つの言葉も紹介します。「看護はひとつの芸術である。看護は最上級の芸術のひとつである。最上級の芸術の中でも最も優れた芸術であるとさえ私は言明してきた」

最後に常盤高校の先生方、特別講師の先生方、病院のスタッフや関係者の皆様、実習で出会った患者さんやご家族の皆様、これまでご指導やご支援をいただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、自分に自信を持ち、残り少ない常盤高校での学校生活を有意義に過ごしてください。